

埼玉県における産業動向と見通し

10～12月の産業天気図は、「電気機械」「輸送機械」の2業種で見通しが改善

概況

わが国の景気は、緩やかに回復している。埼玉県の景気についても、生産は弱い動きとなっているものの、緩やかに持ち直している。

先行きについては、インバウンド（訪日外国人）の増加や経済活動正常化を受けた消費の増加により、景気の持ち直しが続くことが期待されるが、中国経済の減速や、円安による輸入物価の先行き懸念など、不透明感が強くなっている。

聞き取り調査の結果、埼玉県の7～9月期の産業天気図は、建設、百貨店・スーパーが「薄日」となる一方、輸送機械、鉄鋼が「曇り」、一般機械、電気機械が「小雨」となり、業種によるバラツキがみられた。

10～12月期は、一般機械が「小雨」に留まるものの、他の5業種はいずれも「曇り」以上が見込まれる。

主要産業の動向は、以下の通り。

- 一般機械**の生産は、前年を下回った模様である。先行きも、前年を下回る水準で推移するとみられる。
- 電気機械**の生産は、減少が続いている。また、製品による差が大きくなっている。先行きは弱い動きながら徐々に持ち直していくとみられる。
- 輸送機械**の生産は、前年を上回ったとみられる。先行きの生産は、半導体不足等の影響が和らぎ上向くと予想される。
- 鉄鋼**の生産は、前年を下回ったとみられる。先行きについては、前年並みの水準で推移しよう。
- 建設**は、公共、民間とも手持ちの工事量が多く堅調に推移した。先行きは、現状程度の推移が見込まれる。
- 百貨店・スーパー**の売上は、前年を上回ったとみられる。先行きは、売上増が続くとみられるが、物価上昇による節約志向の強まりが懸念される。

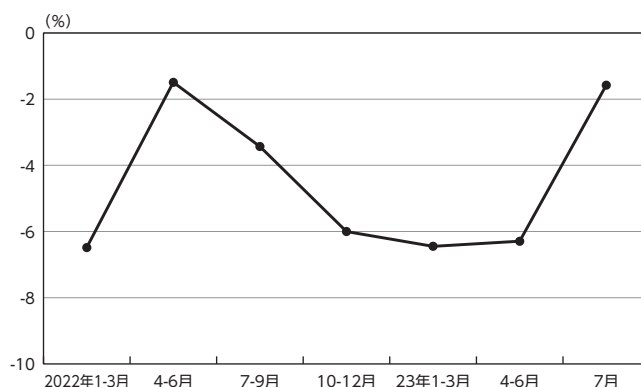
産業天気図

	現状 (7～9月)	今後 (10～12月)
一般機械		
電気機械		
輸送機械		
鉄 鋼		
建 設		
百貨店・スーパー		

天気図の見方



● 鉱工業生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指数」

主要産業の動向

(1) 一般機械…前年を下回る

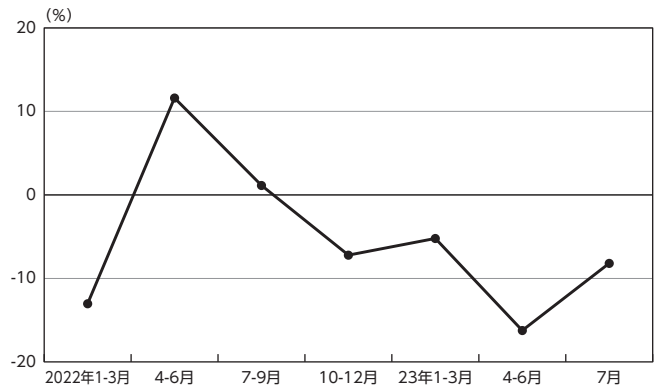
県内の一般機械（汎用機械＋生産用機械＋業務用機械）の生産指数は、昨年4～6月期に汎用機械の好調を受けて前年比＋11.6%とプラスに転じた後、7～9月期も前年を上回ったが、10～12月期は生産用機械が大幅に落ち込んだことなどから、同▲7.2%と再び前年割れとなった。年明け以降は汎用機械の減速も加わり、本年4～6月期まで3四半期連続で前年を下回って推移している。7月についても、汎用機械・生産用機械・業務用機械がいずれも前年割れとなっており、7～9月期を通して、一般機械の生産は前年を下回った模様である。

内訳をみると、汎用機械では、工作機械向けを中心に空気圧機器が好調に推移してきたが、年明け以降は減速している。生産の水準は引き続き高いものの、前年を下回っている。金型は自動車向けの回復が遅れており、低調な動きが続いている。歯車は、自動化機器向けなどは引き続き底堅いものの、工作機械向けが減少しており、総じてみれば前年を下回っている。

生産用機械では、好調に推移してきた全国の半導体製造装置の生産が、パソコンやスマホ向け半導体の需要の落ち込みを受けて減速している。県内の半導体製造装置は低水準での推移が続いている。業務用機械では、昨年の年初から大きく落ち込んでいた医療用機械器具が秋口にいったん持ち直したものの、年明け以降は再び弱い動きを続けている。

先行きをみると、汎用機械では、工作機械受注の動きが弱まっていることもあって、空気圧機器は前年を下回って推移しよう。生産用機械では、パソコンやスマホ向け半導体の需要回復の動きが弱いこともあって、県内の半導体製造装置は当面低調な推移を続けるとみられる。業務用機械では、医療用機械器具は前年並み程度で推移しよう。一般機械の生産は、

●一般機械の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指数」

(注)一般機械＝汎用機械＋生産用機械＋業務用機械

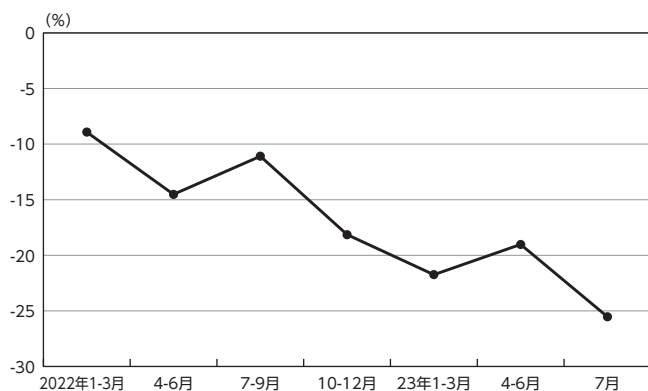
前年を下回る水準で推移するとみられる。収益面では、特殊鋼やエンジニアリングプラスチック、潤滑油など、様々な原材料の価格が大幅に上昇している。電気代や配送費に加え人件費も上っており、県内でも販売価格への転嫁が遅れて、収益が悪化する企業が少なくない。この先も収益面は厳しい状況が続くとみられる。

(2) 電気機械…減少が続いている

県内の電気機械（電子部品・デバイス＋電気機械＋情報通信機械）の生産指数は、1～3月期前年比▲21.7%、4～6月期同▲19.0%と前年比大きなマイナスが続いた。7～9月期もマイナスで推移した模様。電気機械の生産は製品によって好・不調の差が大きくなっており、情報通信機械で大きな減少が続いていることが電気機械全体でマイナスが続く要因となっている。

電子部品・デバイスの生産は、1～3月期前年比▲21.9%、4～6月期同▲15.4%となり、7～9月期も前年比マイナスが続いたとみられる。パソコンやスマホをはじめとする情報通信機器の需要減少に加え、白物家電向けも調整局面が続いていることから、関連する集積回路や電子回路基板などの生産が減少を続けている。なお、一部製品について、県内での生産を取り止めたものもある模様で、その影響も出ている

●電気機械全体の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指数」

(注)電気機械全体=電子部品・デバイス+電気機械+情報通信機械

とみられる。自動車向けは、自動車の生産が供給制約の緩和などから増加していることに加え、使用される部品の点数が増えていることから好調な動きとなっている。産業用の機械に使用される部品等は堅調な動きが続いている。

電気機械の生産は、1～3月期前年比+4.0%、4～6月期同▲1.2%となり、7～9月期は前年比若干マイナスで推移した模様。電気機械で県内で生産されるものは、家庭用はほとんどなく、制御機器や計測機器、動力機器など、産業用の機械やシステムなど様々な機械に組み込まれるものが多く、最終製品は海外へ輸出されるものもある。産業用の機械は、受注残が相応にあり、国内の設備投資は持ち直しているものの、海外需要が弱くなっており、やや弱い動きが続いている。

情報通信機械の生産は、1～3月期前年比▲47.8%、7～9月期同▲40.5%となり、7～9月期も前年比マイナスが続いたとみられる。現在県内での情報通信機械の生産はカーナビ、カーオーディオ、業務用通信機器、交換機などであるが、カーナビ、カーオーディオのウェイトが大きい。このところ、県内でのカーナビ、カーオーディオの生産の減少が続いているとみられる。

先行きについては、電子部品・デバイスは製品により好・不調がはっきりしているが、自動車向けの好調が見込まれることから、持ち直していくとみられる。電

気機械は産業用向けを中心に現状程度の推移が見込まれる。情報通信機器は変動が大きい、持ち直しが期待される。電気機械全体では弱い動きながら徐々に持ち直すとみられる。長期的には、自動車の電動化や電子制御の高度化、情報・通信環境の整備、防災・防犯関連などのインフラ整備にともなう電子部品の需要増なども期待される。

(3)輸送機械…生産は前年を上回る

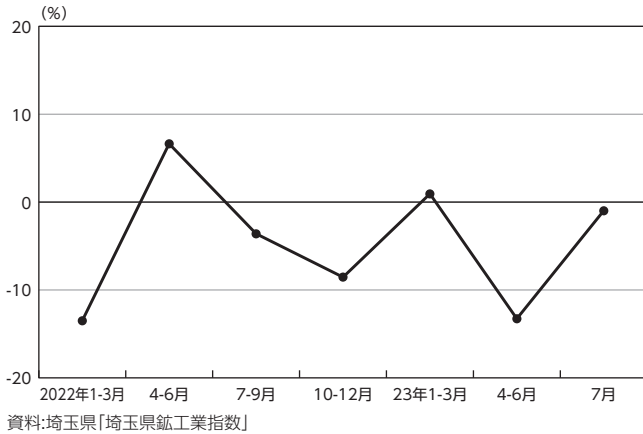
7～9月期の県内の乗用車販売台数(軽を含む)は、半導体不足等による減産の影響が和らいだため、前年を上回ったとみられる。四半期ごとにみると、昨年7～9月期以降5四半期連続で前年を上回り増加傾向にある。ただし、コロナ前の2019年対比では減少が続いており、県内の乗用車販売は上向いているもののコロナ前の水準には戻っていない。

生産動向をみると、県内の輸送機械(乗用車・トラック・自動車部品等を含む)の生産指数は、1～3月期に前年比+0.9%と3四半期ぶりに増加に転じたが、4～6月期は同▲13.3%と再び減少しており、一進一退の状況にある。完成車メーカーの発表によると、県内工場の生産稼働率は、1、2月は8～9割にとどまったものの3月以降は通常稼働となっており、計画通りに工場稼働ができるようになっている。受注から納車までの期間も徐々に短縮されており、半導体不足等の影響は緩和しているとみられ、7～9月期の県内の生産は前年を上回ったとみられる。

先行きの乗用車生産は、受注残が積みあがっており半導体不足等の影響も緩和していくとみられ、上向くと予想される。

トラックの生産は、半導体不足等の影響が緩和しつつあり、7～9月期は前年をやや上回って推移した模様である。供給面での制約から生産は伸び悩んでいたが、トラックに対する底堅い需要を反映し、緩やかながらも回復している。需要面では、都心部でマンション・商業施設・オフィスビルなどの再開発が続いて

● 輸送機械の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



おり、物流施設の建設も活発に行われているため、トラックに対する需要は伸びている。

先行きも、こうした傾向が続くとみられ、生産は増加気味に推移すると予想される。

部品メーカーの生産は、完成車メーカーと同様に推移したとみられる。収益面では、部品メーカーでは、原材料等の高騰を製品価格に転嫁しきれず、厳しい状況が続いているようだ。

先行きについては、乗用車部品メーカーの生産は、完成車メーカーと同様に上向くと予想される。トラック部品メーカーについては、大手完成車メーカーのエンジン不正問題に伴う出荷停止の影響があったが、一部車種の出荷再開があり、生産は徐々に上向くとみられる。

(4)鉄鋼…前年を下回る

県内の鉄鋼の生産指数は、昨年10～12月期に前年比+1.1%とプラスに転じた後、本年1～3月期は同▲2.5%、4～6月期は同▲0.8%となった。おおむね前年並みの水準で推移してきたが、本年7月は同▲4.6%と前年を下回っており、7～9月期を通して、鉄鋼の生産は前年を下回ったとみられる。

鉄筋コンクリート造に使用される棒鋼の生産は、前年をやや下回っている。首都圏では、建設現場で組立加工などを行う作業員の確保が難しい状況が続い

ており、今夏の記録的な猛暑もあって、作業が予定通り進まないケースがみられた。

内訳をみると、海外からの観光客の増加を受けて、ホテルの着工が増えており、ショッピングモールも持ち直している。物流センターは引き続き好調だが、これまでの水準が高かったこともあって、足元では前年を下回っている。首都圏の分譲マンションの着工は一服している。都心部のオフィスは引き続き低調な推移を続けているが、通信関連の基地局などが伸びている。

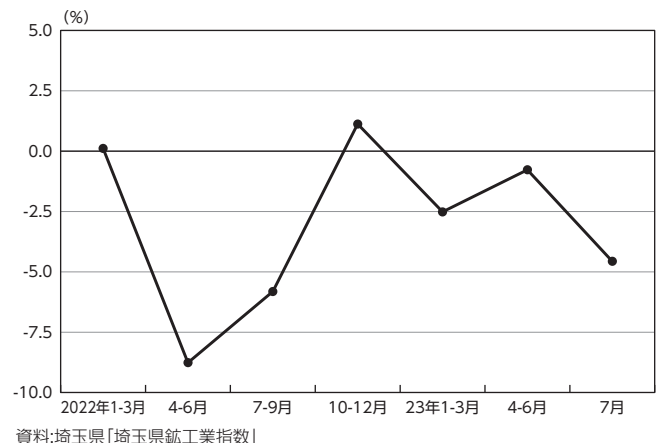
先行きの鉄鋼の生産については、猛暑が一段落したことで建設工事の進捗が見込まれることなどから、前年並みの水準で推移するとみられる。

鋼材の主原料であるスクラップの価格は、振れを伴いながらも横ばい水準で推移している。副資材等の価格は高止まりしているものの、製品価格の引き上げが進んできたことで、一定のスプレッドが確保されており、足元の電炉メーカーの収益状況は堅調に推移している。

鋳物の生産は、わずかながらも前年を上回って推移しているとみられる。これまで好調だった工作機械向けがやや減少しているものの、建設機械向けは比較的堅調で、鋳鉄管も底堅く推移したようだ。

鋳物の生産は工作機械向けの減少が当面続くとみられることから、先行きは前年を若干下回る水準で

● 鉄鋼の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



推移するとみられる。

収益面では、中国などの鉄鋼需要の減少を受けて、鋳物用銑鉄の価格引き下げが見込まれる一方で、電気料金が上昇しており、電炉のコストは押し上げられている。製品の価格改定が遅れていることもあって、企業の収益は厳しい状況が続くとみられる。

(5)建設…堅調な動きが続く

公共工事：県内の公共工事請負金額は1～3月期前年比+33.8%、4～6月期同▲12.5%、7～9月期同+9.3%とやや振れがあるが、総じて好調な推移となっている。公共工事は受注残が多く、足元の工事量も高水準で安定している。人手の問題などから、これ以上受注を増やすのは難しいとするところもある。資材価格の上昇については一時に比べ落ち着いてきているが、工賃が上昇している。新規受注の工事については、価格の上乗せを行っており、価格転嫁は比較的順調に進んでいる模様。

公共工事の内容は、老朽化に対応するため建物のほか、河川、橋梁、道路なども改修・補修工事が多く、新規の建設案件は少ない。

先行きは、老朽化対策に加え、災害対策のための工事も増加すると期待されている。受注残も多く、しばらく繁忙な状況が続く見込み。

民間工事：県内の非居住用の建築着工床面積は、1

～3月期前年比+36.7%、4～6月期同▲19.5%、7～9月は前年比マイナスで推移した模様。月毎の振れはあるものの、民間工事は着工ベースでやや弱い動きとなっている。ただ、受注残は相応に確保しており、工事量はほぼ横ばいの推移となっている。

用途別ではウェイトの高い倉庫など、運輸業用は一時の勢いは鈍化している。製造業用はしばらく増加傾向にあったが、このところ、弱い動きとなっている。商業用や宿泊・飲食サービス用はこのところ持ち直している。医療・福祉用は安定した動きが続いている。

先行きは、受注残が相応にあることなどから、工事量は現状程度で推移すると見込まれる。また、都内での受注競争が激しくなると、県内での受注に影響する懸念もあるが、都内では再開発など大型案件の工事が続いており、現状では影響はあまり出ていない模様。

住宅：1～3月期の新設住宅着工戸数は前年比+0.8%、4～6月期は同▲1.3%、7～9月期は前年比横ばいとなった模様。住宅着工戸数はほぼ前年並みで推移している。

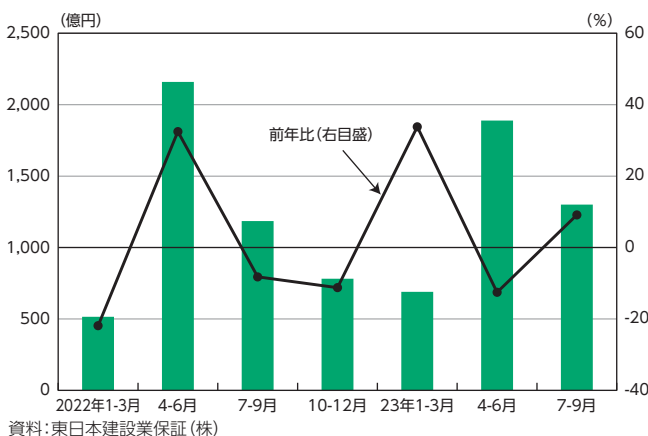
マンションは、都内では価格の高騰に関わらず、好調な販売状況が続いているが、県内では、このところ価格の低下や供給戸数の減少、販売面での低調な動きが続いている。これは、適地が少なくなっていたことにより、このところ利便性にやや劣る物件の販売が多くなったためとみられる。ただ、現在、利便性が高く、人気の高い場所で大型物件の工事が始まっていることなどから、今後、供給戸数の増加や価格の持ち直しが予想されている。

戸建の分譲住宅は、物価の上昇や物件価格の上昇に加え、金利動向を見極めようとする動きもあり、購入に慎重な姿勢が見られるようになっている。

貸家は、持ち直しの動きが続いている。持ち家については、低調な動きが続いている。

先行きは、住宅全般について、物価高や金利動向、工賃の上昇による物件価格の上昇など懸念される点

●公共工事請負金額(前年比)の推移(埼玉県)



もあるが、今春の賃上げ率が高かったことなどから、現状から横ばい程度の動きが続くと予想される。

また、建設業全体では、従業員の高齢化、週休2日制、2024年度からの時間外労働時間の規制強化などへの対応が求められている。

(6)百貨店・スーパー…百貨店・スーパーとも増加

百貨店：7～9月期の売上は前年を上回ったようだ。新型コロナウイルスの5類への移行後、人々の活動が活発化し売上増が続いている。来店客数、1人当たりの購入単価とも上昇している。ただし、コロナ前の2019年の売上には届いておらず、県内の百貨店の販売は回復しているもののコロナ前には戻っていない。

品目別では、行動制限がなくなったため外出需要が高まり、外出着や服飾雑貨、スーツケースなどの旅行用品、手土産やギフト、浴衣などの販売が堅調だった。猛暑が続いたため、UV関連の化粧品や日傘、帽子、サングラスなどの盛夏アイテムの売上も増加した。食料品の売上は前年を上回って推移している。食品関連の物産展などの催事は堅調で、レストランなどの飲食の売上も伸長した。

高額品は、都心店ほどではないが、引き続き堅調に推移している。宝飾、貴金属、時計、バッグ、財布など的高级ブランド品の増勢が続き、富裕層が中心の外商の売上も増加している。一方、中間層の消費は、衣料品などを中心に増加しているが、食料品などの値上げにより生活防衛色を強めている。インバウンド(訪日外国人)による消費は増加しているが、県内では全体に占める割合が僅かで売上への影響は小さい。

新たな動きとして、地方の老舗百貨店と連携して相互に出店するご当地フェアが開催された。各地の老舗百貨店がセレクトした商品が県内百貨店に並び、地方の老舗百貨店に埼玉の逸品が並ぶ。

先行きは、高額品を中心に売上増が続くとみられる。賃上げやボーナス増など所得は増加しているが、物価上昇も続いており生活防衛意識の強まりなどの

不透明要因もある。

スーパー：7～9月期の売上は前年を上回ったようだ。コロナ前の2019年比でも増加が続いており、スーパーの売上は堅調に推移している。ただし、1人当たりの買い上げ点数が減少するなど、値上げによる節約志向の高まりもみられた。

品目別では、衣料品、食料品とも増加したとみられる。外出機会が増加し、猛暑が続いたことで、夏物衣料や日傘、肌着、行楽用品などの販売が堅調だった。

主力の食料品は、コロナ禍の巣ごもり需要の反動減が一巡したことや、値上げによる価格上昇の影響もあり、前年を上回って推移している。猛暑の影響で飲料やアイスなどの販売が好調だったほか、外食に比べ割安感のある惣菜の売上も増加した。

物価上昇で消費者の節約志向が強まっており、メーカー製品よりも割安なプライベートブランド(PB)が伸びており、値ごろ感のある商品が売れ筋となっている。コロナ禍で増えていたネットスーパーの売上は、やや伸び悩んでいる。外出機会が増加したため、実店舗での購入が増えているためとみられる。

収益面では、水道光熱費等の値上がりが大きく厳しい状況にある。

先行きについては、春闘賃上げ率は高水準だったが、物価上昇には追いついていない状況にあり、消費者の節約志向は強まっているとみられ、消費意欲を冷やす懸念がある。

●百貨店・スーパー販売額(前年比)の推移(埼玉県、既存店)

